平成２７年度　病害虫発生予察注意報　第２号

平成２８年１月２８日
栃木県農業環境指導センター

作物名　：トマト（越冬・冬春作型）

病害虫名：トマト灰色かび病（*Botrytis cinerea*）

１　発生予想　発生量　多い

２　発生地域　県内全域

３　注意報発表の根拠

（1）　１月の巡回調査におけるトマト灰色かび病の発生ほ場率は31.8％（平年比177％）、発生株率は2.6％（平年比236％）と高く（表１、図１）、特に越冬作型で発生が多い。

（2）　今後の気象予報では、降水量は多く、日照時間は少ない。このため、十分な換気ができずハウス内が多湿となりやすく、灰色かび病菌の増殖に好適な条件となり、発生は増加すると予想される。

表１　１月のトマト灰色かび病の発生ほ場率・株率（過去10年）

	ほ場率(%)	株率(%)
本年	31.8	2.6
H27．1	22.7	0.4
H26．1	4.8	0.3
H25．1	25.0	1.1
H24．1	29.6	1.1
H23．1	17.4	0.6
H22．1	29.6	4.6
H21．1	10.0	0.3
H20．1	15.4	1.5
H19．1	16.7	0.6
H18．1	8.3	0.1
平年値(10年)	18.0	1.1

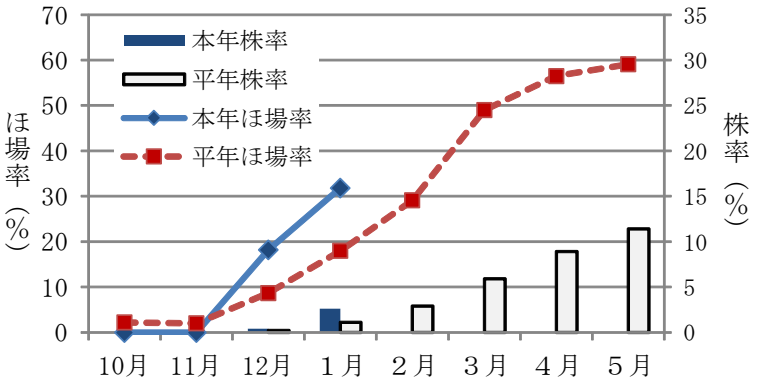

図１　トマト灰色かび病発生ほ場率・株率の推移（月別）

４　防除対策

（1）　本病の発生は20℃前後の気温と多湿条件で助長されるため、換気や暖房機・循環扇等の稼働により、施設内の温度・湿度を適切に管理する。

（2）　発病果実・葉、枯死葉、花がら等は本病の発生源となるため、速やかに除去する。

（3）　薬剤散布は予防を主体とし、発生状況に応じて異なる薬剤をローテーション散布する（表２）。なお、くん煙剤は湿度を高めないので、曇雨天時の防除手段として有効である。

表２　トマト灰色かび病に登録のある主な薬剤　（平成28年1月22日現在）

薬剤名	希釈倍数使用量	使用時期	使用回数	成分／成分の使用回数
アフェットフロアブル	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	ペンチオピラド／3回以内
ピクシオＤＦ	2,000倍	収穫前日まで	4回以内	フェンピラザミン／4回以内
フルピカフロアブル	2,000～3,000倍	収穫前日まで	4回以内	メパニピリム／4回以内
セイビアーフロアブル２０	1,000～1,500倍	収穫前日まで	3回以内	フルジオキソニル／4回以内*1
ポリオキシンＡＬ水溶剤	5,000倍	収穫前日まで	3回以内	ポリオキシン／3回以内
ボトキラー水和剤*2	10~15g/10a/日*3	発病前～発病初期	－	バチルス ズブチリス／－
ロブラールくん煙剤	*4	収穫前日まで	3回以内	イプロジオン／4回以内*5

*1 種子への処理は1回以内、散布は3回以内　*2 作物登録は野菜類　*3 ダクト内投入

*4 くん煙室容積300～400m^3(高さ2m、床面積150～200m^2)当り100g(50g×2個)　*5 種子粉衣は1回以内、は種後は3回以内

注）　ボトキラー水和剤は低温では効果が出にくいので、施設内の気温を10℃以上に保つ。

詳細は、農業環境指導センター（TEL028-626-3086）までお問い合わせください。
病害虫情報発表のお知らせは「農政部ツイッター(@tochigi_nousei)」、農業環境指導センターホームページ（http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html ）でもご覧になれます。